

令和7年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No. 4

- 1 **かん水の増量**や**トマトトーン処理**による着果促進、**ハウス内の温度管理**など高温に負けない管理をしましょう。
- 2 **収穫終了予定日から逆算して、主枝摘心**を実施しましょう。
- 3 8月は、病害では**葉かび病、すすかび病、斑点病**、害虫では**オオタバコガ、トマトキバガ**の発生に注意しましょう。



1 栽培管理

(1) かん水

夏の高温期は吸水量が増えるため、最大量（**2本仕立てで1日に株あたり4L程度**）まで増やします。9月以降は、少しずつ減らし、2～3L/株を目安とします。

(2) トマトトーン処理

トマトトーンによるホルモン処理は**確実な着果と肥大促進**の効果があります。30℃以上の高温になると、花粉の稔性が低くなりますので、確実な着果にはトマトトーン処理が有効です。

表1 トマトトーンの農薬登録内容

作物名	使用方法	希釈倍数		使用時期	使用目的	本剤の使用回数
ミニトマト	散布	低温時 (20℃以下)	50倍	開花前3日～ 開花後3日位	着果促進、 果実の肥大促進、 熟期の促進	1花につき 1回
		高温時 (20℃以上)	100倍			

※令和7年7月23日の農薬登録情報に基づき作成しています。

(3) 温度管理

30℃以上の高温は**着果不良**や**着色不良**、**軟化玉**など生理障害の原因になります。**遮光率20～30%程度の遮光資材の設置**と**換気**でハウス内の温度を下げましょう。

(4) 摘葉

8月は、高温対策のために葉を多めに残し、**収穫を開始した花房より下に葉を5枚程度残す**ように摘葉します。

(5) 主枝摘心

収穫終了予定日から2か月前（最終花房の開花期）

を目安に、**開花直前の花房の上の葉2枚を残し**、一斉に主枝摘心しましょう。

例) 10月下旬まで収穫→8月下旬に摘心

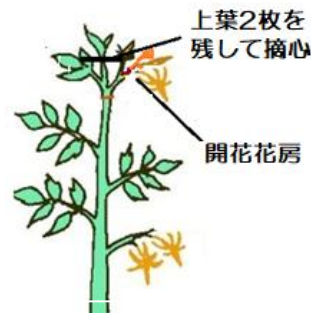


図1 主枝摘心の方法

2 病害虫防除のポイント

- (1) 8月は病害では**葉かび病**、**すすかび病**、**斑点病**、害虫では**オオタバコガ**、**トマトキバガ**の発生に注意しましょう。
- (2) 防除暦を参考に**定期防除**や**特別散布**を行いましょう。農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 防除の際は**葉裏**、**下葉まで十分な量の薬液がかかるように丁寧に散布**します。
- (4) **萎ちょう病などの土壌病害の拡大防止**のために、他の生産者ほ場を訪問する場合には**靴カバーを着用**しましょう。

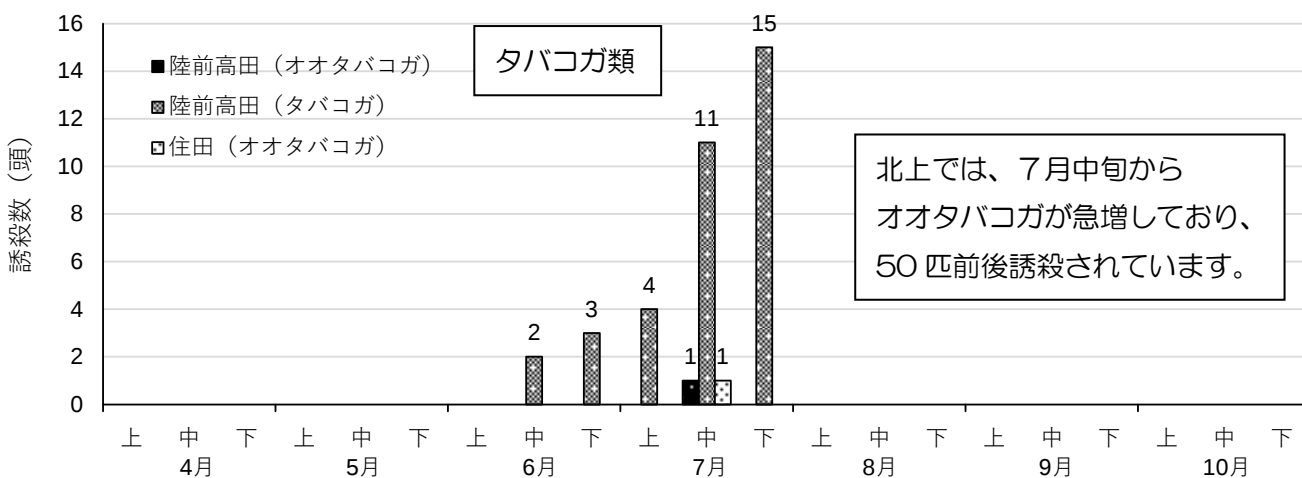
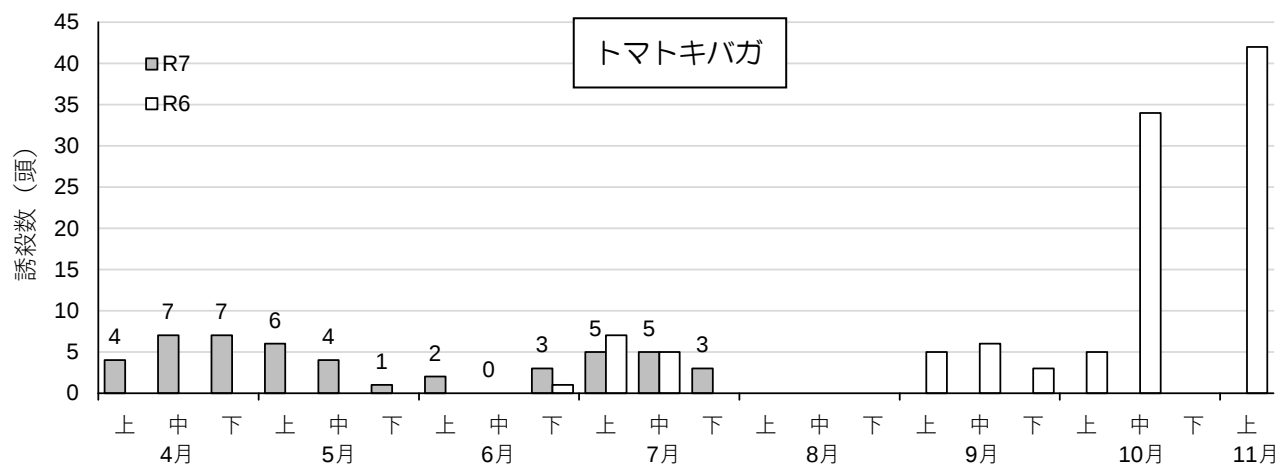


図2 管内のフェロモントラップへの誘殺状況

3 特別散布農薬（一部抜粋）

(1) 殺菌剤

薬剤名	病害名	使用時期	希釈倍数	使用回数	備考
ベジセイバー	葉かび病○ すすかび病○ 斑点病◎	収穫前日まで	1,000 倍	2 回以内	SDHI剤。※1 TPNを含む。※3 ペンチオピラドを含む。※4
ファンタジスタ 顆粒水和剤	葉かび病◎※ すすかび病◎ 斑点病○	収穫前日まで	3,000 倍	3 回以内	Qol剤。※2
アミスターオブティ フロアブル	葉かび病◎※ すすかび病◎ 斑点病○	収穫前日まで	1,000 倍	2 回以内	Qol剤。※2 TPNを含む。※3
セイビアーフロアブル 20	斑点病○	収穫前日まで	1,000 倍	3 回以内	

※1：耐性菌の発生リスクが高いため、他のSDHI剤と合わせて年2回以内の使用とする。

※2：耐性菌発生リスクが高いため、連用や止め散布は避け、他のQol剤と合わせて年2回以内の使用とする。

※3：ベジセイバーとアミスターオブティフロアブルは、同じ成分(TPN)を含む。TPNを含む農薬の総使用回数は2回以内。

※4：ベジセイバーとアフエットフロアブルは、同じ成分(ペンチオピラド)を含む。ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数は3回以内。

(2) 殺虫剤

薬剤名	病害名	使用時期	希釈倍数	使用回数	備考
アフーム乳剤	オオタバコガ◎ トマトキバガ○	収穫前日まで	2,000 倍	5 回以内	
アクセルフロアブル	オオタバコガ◎ トマトキバガ○	収穫前日まで	1,000 倍	3 回以内	
フェニックス 顆粒水和剤	オオタバコガ◎ トマトキバガ◎	収穫前日まで	2,000 倍	2 回以内	
グレーシア乳剤	オオタバコガ◎ トマトキバガ◎	収穫前日まで	2,000 倍	2 回以内	

令和7年7月23日の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬の使用は、必ず容器のラベルで使用基準（適用作物、単位面積当たりの使用量や希釈倍数、使用時期、有効成分の種類ごとの総使用回数）や注意事項を確認し、農薬使用者が責任を持って使用してください。

適用病害虫に対する防除効果について、農業研究センターが判断できるものを、◎：優れる、○：有効と示しています。また、トマトキバガの防除効果については、室内試験データから評価したものであり、ほ場で使用した場合の評価とは異なる可能性があります。※は当該薬剤と病害の組合せにおいて、同一薬剤の連用又は同系薬剤の連用によって耐性菌を生じやすい薬剤であることを示します。

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施期間

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。